

平成 25 年度 事業報告書

一般財団法人日本自動車研究所

目 次

1. 法人の概況	1
1.1 設立年月日	1
1.2 定款に定める目的	1
1.3 定款に定める事業	1
1.4 賛助会員に関する事項	1
1.5 主たる事務所、従たる事務所の状況	1
1.6 評議員、役員等に関する事項.....	2
1.7 職員等に関する事項.....	2
1.8 評議員会、理事会に関する事項	2
2. 事業の状況	2
2.1 実施事業（公益的な事業）	2
2.1.1 基礎研究（自主的な研究）	2
2.1.2 総合研究（官公庁からの受託事業・補助事業）	3
2.2 その他事業（公益的な事業を除く全ての事業）	4
2.2.1 研究・試験事業.....	4
2.2.2 施設・設備の運用事業	5
2.2.3 認証事業（審査及び登録事業）	5
2.2.4 JNX 事業	6
2.3 法人運営	6
2.4 重要な契約に関する事項.....	6
2.5 正味財産増減の状況及び財産の増減の推移	7

附属明細書

1. 法人の概況

1.1 設立年月日

昭和 36 (1961) 年 4 月 7 日

1.2 定款に定める目的

この法人は、自動車に関する研究を通じて、自動車及び関連分野の総合的、長期的技術の向上を図るとともに、エネルギー資源の適正な利用の増進に資し、もって産業の健全な発展と国民生活の向上に貢献することを目的とする。

1.3 定款に定める事業

この法人は、定款に定める目的を達成するため、自動車及び関連分野に関する次の事業を行う。

- (1) 基礎的な調査、研究及び技術開発
 - (2) 環境、エネルギー、安全及び情報・電子技術の調査、研究及び技術開発
 - (3) 標準化の推進及び基準の設定への協力
 - (4) 試験及び評価
 - (5) 技術協力、技術指導及び人材育成
 - (6) 情報の収集及び成果の普及・啓発
 - (7) 所要施設・設備の運用
 - (8) 国内外の規格に基づくマネジメントシステムの審査及び登録
 - (9) 電子商取引のための共通のネットワークシステムの提供
 - (10) 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
- これらの事業は、国内又は海外において行うものとする。

1.4 賛助会員に関する事項

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

区 分	賛助会員数	平成 24 年度比
財団運営維持	122	△2
一 般	86	+8
団 体	12	±0
合 計	220	+6

1.5 主たる事務所、従たる事務所の状況

主たる事務所：東京都港区芝大門一丁目 1 番 30 号

従たる事務所：茨城県つくば市大字苧間 2530 番地

茨城県東茨城郡城里町大字小坂字高辺多 1328 番 23

1.6 評議員、役員等に関する事項

平成 25 年度期末における評議員、役員等は、附属明細書「1.1 評議員名簿」、「1.2 役員等名簿」、「1.3 顧問名簿」に示すとおりである。

1.7 職員等に関する事項

平成 25 年度期末における職員数は、341 名（平成 24 年度末比増減 +1 名）である。また、平成 25 年度の組織は、附属明細書「1.4 組織図」に示すとおりである。

1.8 評議員会、理事会に関する事項

平成 25 年度に開催した評議員会、理事会は、附属明細書「1.5 評議員会、理事会の議事一覧」に示すとおりである。

2. 事業の状況

「非営利性が徹底された一般財団法人」へ移行して 2 年目となる今年度も、引き続き法令及び定款を遵守した運営を行った。公益目的支出計画については、実施事業を着実に実施することによって、ほぼ計画通り実行することができた。

実施事業においては、自主的な研究によって研究基盤の発展に取り組むとともに、官公庁からの委託等によって、中立的な研究機関という立場から国際標準化の積極的な推進などに取り組んだ。一方、その他事業では社会ニーズを踏まえた研究・試験及びサービスの改善施策などに取り組んだ。

平成 25 年 3 月に策定した第 4 次長期運営方針に基づいて、「研究と経営の両立」の実現という目標に向けた経営基盤の安定化施策を今年度から開始した。具体的には、関連企業への情報提供及びニーズ把握等による事業拡大、購買機能の強化等による経費削減といった諸施策を推進した。また、JARI に求められる役割・機能として長期運営方針に掲げた産官学での共通課題研究コンソーシアムについても主導的に推進した。

2.1 実施事業（公益的な事業）

自主財源で取り組む基礎研究（自主的な研究）については、研究基盤の維持・発展を目指して取り組んだ。総合研究（官公庁の受託事業・補助事業）については、公募情報等を注視し、適切な提案・応募を行うことで、研究、試験、調査活動に積極的に参画した。なお、実施事業の研究成果は、学会等への発表やホームページ、セミナー等を通じて広く一般に公開した。代表的な事例を以下に示す。

2.1.1 基礎研究（自主的な研究）

環境・エネルギー分野においては、水素燃料電池自動車の安全性に係わる解析手法及び蓄電池の安全性評価手法の習得に取り組み、同分野の研究の付加価値を拡大した。また、新たに先端解析技術を用いた車載リチウムイオン電池の劣化機構解析に

取り組み、Spring-8 を用いた硬 X 線光電子分光法などによる活物質界面の劣化状態の測定や解析を行って、評価技術の構築を進めた。

内燃機関自動車については、実走行時の風、操舵が燃費に及ぼす影響や、タイヤ空気圧がタイヤでのエネルギーロスに及ぼす影響等について、実路、テストコース及びシャシダイナモ試験等から詳細解析を行った。

安全分野においては、ドライバ状態ならびに乗員挙動の計測手法を検討し、心理的負荷をドライビングシミュレータの運転席のハンドルに装着した発汗センサによって定量化する可能性を見出した。また、JARI-ARV（拡張現実実験車）について通常車両との運転行動等の比較を行うことで、JARI-ARV の特性を確認した。

新たな取り組みとして、これまでに蓄積した自動車の衝突安全に関する知見を応用して、スポーツ用保護具の検討を行った。また、ロボットの制御と安全に関する知見の蓄積を目指し、ロボットの安全規格 ISO 13482 の要求を満足する安全技術を搭載した草刈ロボットを試作した。

IT・通信・エレクトロニクス分野においては、IT 技術やスマートフォンといった CE（Consumer Electronics）技術の自動車への適用が活発化していることから、それらの適用に関する調査研究に取り組んだ。また、自動車の電気・電子システムの機能安全規格である ISO 26262 の国際認証スキーム策定を目指し、関係企業 28 社が参加する共同研究事業の枠組みの中にアセスメント WG を立上げてスキーム策定に向けた活動を開始した。

2.1.2 総合研究（官公庁からの受託事業・補助事業）

環境・エネルギー分野においては、車載蓄電池並びに電動車両等に関する性能及び安全性の評価試験法開発に資するデータを収集し、国際標準化を推進することで、車載蓄電池関連分野での日本の国際競争力の強化と、電動車両の普及推進に取り組んだ。また、燃料電池の劣化メカニズムの解明を目的として、実使用環境下での電極触媒劣化過程のその場観察を実施し、触媒の構造変化に影響する因子を明らかにした。

内燃機関自動車については、最新の排出ガス規制に適合したディーゼル重量車を対象とした使用過程車の排出ガス排出実態を調査し、排出ガス後処理装置の性能変化に関する知見を得た。また、乗用車の排出ガス・燃費試験法、エアコン燃費試験法等の検討成果を国内や国連での基準化活動に活用し、国際基準調和会議における日本提案に貢献した。

安全分野においては、衝突被害軽減ブレーキ（AEB）の過信対策や必要最低限の性能のあり方の検討を目的として、異なるセンシング方式を採用する 3 種類の車両について、各種環境条件における AEB の検知性能や機能限界を評価した。あわせて、

対車両 AEB 装置及び車線逸脱警報 (LDW) 装置の評価法・試験法を策定した。また、自動車安全基準の拡充・強化等に資するため、交通事故の傾向調査等により重点分野を示すとともに、効果予測等により今後の対策を検討した。

一方で、最近注目を浴びつつある超小型自動車に関しては、海外で販売されている車両の歩行者保護性能試験、前面衝突試験、側面衝突試験を実施し、安全性能の実態を把握した。また、ロボット技術を導入した新たな介護機器の開発・導入を促進する事業においては、生活支援ロボットプロジェクトで得られた知見を参考として、リスク算定のための危害データと試験法の素案を作成した。

IT・通信・エレクトロニクス分野においては、ITS 協調システムに関する国際標準化活動を積極的に推進し、神戸で ITS 標準化国際会議を主催した。また、東京で開催された ITS 世界会議では、エネルギー ITS 事業で開発したトラックの自動運転・隊列走行デモを出展し、内外から高い評価を得た。

2.2 その他事業（公益的な事業を除く全ての事業）

経営基盤の安定に資するため、関連する業界団体や自動車メーカーをはじめとする関連企業への情報提供と情報共有を積極的に推進することで、事業拡大に取り組んだ。加えて、関連業界や顧客のニーズを把握し、サービスの改善や新たなサービスの開始によって、顧客の満足度の向上を目指した。代表的な事例を以下に示す。

2.2.1 研究・試験事業

環境・エネルギー分野では、水素・燃料電池自動車の安全評価試験設備 (Hy-SEF) において、高圧容器や容器附属品の水素充填試験や破裂試験などの安全性評価試験、水素燃料電池自動車やリチウムイオン電池を搭載する電動車両の各種火災試験を実施し、安全な電動車両の開発に資する研究に取り組んだ。内燃機関自動車については、大型・小型・二輪車、ハイブリット車・電気自動車などの次世代自動車及び自動車用や建設機械用エンジンシステムの排出ガスや燃費等を評価した。また、排出ガス及び燃料蒸発ガス試験に関する ISO/IEC 17025 試験所認定により、スイス環境局よりスイス独自の建設機械用エンジンの粒子数規制に対する試験機関として認定を受け、認可に必要な試験データを提供した。

自動車の更なる燃費の向上や排ガスの低減に向けて、内燃機関の燃焼技術等の共通課題に取り組むために「自動車用内燃機関技術研究組合」に積極的に参画した。

安全分野においては、従来の工学データに加えて、救急活動データや詳細な傷害データ等を対象に加えた、病院を拠点とする新たな事故調査体制を構築し、コンソーシアム形式での事業を開始した。ASEAN-NCAP の公式衝突試験機関に認定されたことによる海外 NCAP (ASEAN-NCAP、A-NCAP) 試験の需要拡大や、電気自動車やハイブリット車の普及に伴う電池セルの衝撃試験の需要拡大に対応した。

また、独自に開発した JARI-ARV を用いて対交通弱者事故の典型的場面の再現実験を行い、運転行動特性把握と効果的な対策についての研究に取り組んだ。歩行者の腰部保護に関する研究としては、腰部保護に関する事故データの収集・コストベネフィット分析などを実施した。

IT・通信・エレクトロニクス分野においては、高速道路のトンネル照明清掃車両に自動走行システムを搭載し、日本で初めて実用化することに成功した。機能安全規格 ISO 26262 関連では、規格解説書を発行し業界に広く展開するとともに、業界の安全文化醸成を目的に、教育事業やコンサルティング事業にも積極的に取り組んだ。また、新たな取り組みとして、自動走行技術開発に関連した全天候車線認識技術やバスの自動走行技術の調査研究事業を実施した。

平成 25 年 11 月に第 2 回アジア自動車研究所サミットをインドネシア側事務局と連携して、開催した。研究者交流、排気物質、電気自動車、二輪車安全などについて意見交換を行い、各研究機関の相互理解が深まるとともに、継続的な議論が必要であることが確認された。

なお、実施事業（基礎研究、総合研究）及びその他事業（研究・試験事業）にて実施した研究事業は、附属明細書「2.1 平成 25 年度研究事業一覧」に示すとおりである。また、研究事業で得られた成果を国内外において発表した論文等は附属明細書「2.2 平成 25 年度所外発表論文等一覧」に、発表活動における学会表彰の受賞者は附属明細書「2.3 平成 25 年度学会表彰の受賞者一覧」に示すとおりである。

また、産業財産権の出願、登録状況は、附属明細書「2.4 平成 25 年度産業財産権出願一覧」及び「2.5 平成 25 年度産業財産権登録一覧」に示すとおりである。

2.2.2 施設・設備の運用事業

城里テストセンターは、新規顧客に対するテストコース見学案内や既存顧客内の未利用部署に対する施設活用策提案などに取り組んだ。また、テストコースの安全性・利便性向上に関する施設改善を行い、ホームページにコース走行状況の動画やコース予約状況の案内を掲載するなど、積極的に情報発信した。その結果、新規利用者が増加したほか、試乗会等の用途が拡大した。また、受託試験利用が増加した際にもテストコースの貸出し需要に最大限対応できるようメンテナンスを含めた日程調整を行い、昼間・夜間の貸出収入を堅持した。

テストコースの外部利用者の使用状況は附属明細書「3.1 平成 25 年度テストコース外部利用者使用状況」に示すとおりである。

2.2.3 認証事業（審査及び登録事業）

平成 25 年度は、平成 23 年度以降に開始した認証事業が着実に成果を上げ始めた。

具体的には、平成 23 年 4 月より事業を開始したエネルギーマネジメントシステム認証で 1 件目の登録が完了し、平成 24 年 4 月より事業を開始した普通充電器の製品認証では 2 件目の認証を登録した。また、平成 25 年度より事業を開始した道路交通安全マネジメントシステム認証で 1 件目の認証を登録することができた。

従来から実施している環境マネジメントシステムや品質マネジメントシステムの認証登録に加えて、今後はこれらの新規事業の発展が期待される。

2.2.4 JNX 事業

自動車業界の部品の受発注において、紙・FAX での受注出荷業務を行っている事業者間の EDI 化を実現する「JNX 共通 EDI サービス」を平成 24 年 2 月より開始しており、本年度はその普及促進策や機能拡張に取り組んだ。また、メインデータセンターを再構築することで機器運用工数の削減にも取り組んだ。

2.3 法人運営

「非営利性が徹底された一般財団法人」として法令及び定款を遵守した運営を行うとともに、昨年度に引き続き経営基盤の安定施策に注力した。

全所的な横串機能を持つタスクフォースを中心として、既存顧客への積極的な JARI の事業内容に関する情報提供やコスト削減に関する所員の意識改革などに取り組んだ。固定資産の取得は投資回収性を考慮した上で計画的に推進した。また、一部遊休地の売却に向けた取り組みを進めた。

事業拡大とコスト削減等の取り組みにより、平成 25 年度の当期経常増減額は、期首予算を上回る△3.6 億円となった。

広報活動においては、ホームページの大幅な改訂、研究・事業報告会の開催などにより事業成果を積極的に発信した。平成 25 年度に刊行した技術刊行物は附属明細書「4.1 平成 25 年度技術刊行物一覧」に示すとおりである。また、平成 25 年度の蔵書、資料保有状況は附属明細書「4.2 平成 25 年度蔵書、資料保有状況」に示すとおりである。

なお、平成 25 年度の寄付金実績は附属明細書「4.3 平成 25 年度寄付金実績」に示すとおりである。

2.4 重要な契約に関する事項

重要な契約に関する事項は、以下のとおりである。また、平成 25 年度に実施した主要な設備導入・工事等は附属明細書「4.4 平成 25 年度主要設備・工事等一覧」に示すとおりである。

(1) 重要な委託契約等について

- ・インパクトバイオメカニクスに関する研究（人体 FE モデル開発）他

(2) 重要な設備投資について

- ・ EV・電池研究棟の建設
- ・ 土地等に関する権利の取得
- ・ 誘導結合プラズマ高分解能飛行時間型質量分析計リース

2.5 正味財産増減の状況及び財産の増減の推移

(単位：百万円)

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
当期経常増減額	△1,257	△614	△39	△363
正味財産期末残高	19,687	19,420	19,453	19,067

附属明細書

附属明細書 目次

1.1	評議員名簿.....	10
1.2	役員等名簿.....	11
1.3	顧問名簿.....	12
1.4	組織図.....	13
1.5	評議員会、理事会の議事一覧.....	14
2.1	平成 25 年度研究事業一覧.....	15
2.2	平成 25 年度所外発表論文等一覧.....	17
2.3	平成 25 年度 学会表彰の受賞者一覧.....	25
2.4	平成 25 年度産業財産権出願一覧.....	25
2.5	平成 25 年度産業財産権登録一覧.....	25
3.1	平成 25 年度テストコース外部利用者使用状況.....	26
4.1	平成 25 年度技術刊行物一覧.....	27
4.2	平成 25 年度蔵書、資料保有状況.....	27
4.3	平成 25 年度寄付金実績.....	27
4.4	平成 25 年度主要設備・工事等一覧.....	28
	参考：平成 25 年度正味財産増減計算書（予算決算比較表）.....	29

1.1 評議員名簿

評議員（16人）

（平成26年3月31日現在）

評議員会 会長	岡 本 一 雄	(公社)自動車技術会 元会長 (日野自動車(株) 相談役)
評議員	山 本 卓 志	本田技研工業(株) 取締役 専務執行役員
〃	久 村 春 芳	日産自動車(株) フェロー
〃	山 科 忠	トヨタ自動車研究開発センター(有) 副会長兼社長
〃	小 泉 年 永	(株)リケン 特別顧問
〃	信 元 久 隆	曙ブレーキ工業(株) 代表取締役会長兼社長
〃	岩 波 利 光	日本電気(株) 特別顧問
〃	大 沼 邦 彦	日立オートモティブシステムズ(株) 取締役会長兼CEO
〃	小 川 王 幸	(株)日本自動車部品総合研究所 顧問
〃	森 安 俊 紀	(株)東芝 顧問
〃	松 村 幾 敏	J X日鉱日石エネルギー(株) 元顧問
〃	渡 邊 穰	中部電力(株) 取締役専務執行役員 お客さま本部長
〃	石 谷 久	東京大学 名誉教授
〃	桑 原 雅 夫	東北大学大学院 教授
〃	垂 水 尚 志	(公財)鉄道総合技術研究所 顧問
〃	大 聖 泰 弘	早稲田大学 教授

1.2 役員等名簿

理事：16人、監事：2人、会計監査人：1名

(平成26年3月31日現在)

代表理事 理事長	豊田章男	(一社)日本自動車工業会 会長 (トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長)
副理事長	名尾良泰	(一社)日本自動車工業会 副会長・専務理事
代表理事 研究所長	永井正夫	
代表理事 専務理事	半田茂	
業務執行理事 常務理事	黒田哲平	
業務執行理事	田中利明	
〃	岸田栄二	
〃	吉田泰	
〃	竹内俊作	
理事	天野肇	ITS Japan 専務理事
〃	鎌田実	東京大学 教授
〃	高橋武秀	(一社)日本自動車部品工業会 副会長 専務理事
〃	早川茂	(一社)日本自動車工業会 企画部会部会長 (トヨタ自動車(株) 専務役員)
〃	吉田正弘	(一社)日本自動車工業会 企画部会副部会長 (本田技研工業(株) 取締役 常務執行役員)
〃	堀洋一	東京大学大学院 教授
〃	吉田正寛	JX日鉱日石リサーチ(株) 副社長執行役員
常勤監事	緒方廣己	
監事	今井伸茂	富士重工業株式会社 常勤監査役
会計監査人	優成監査法人	

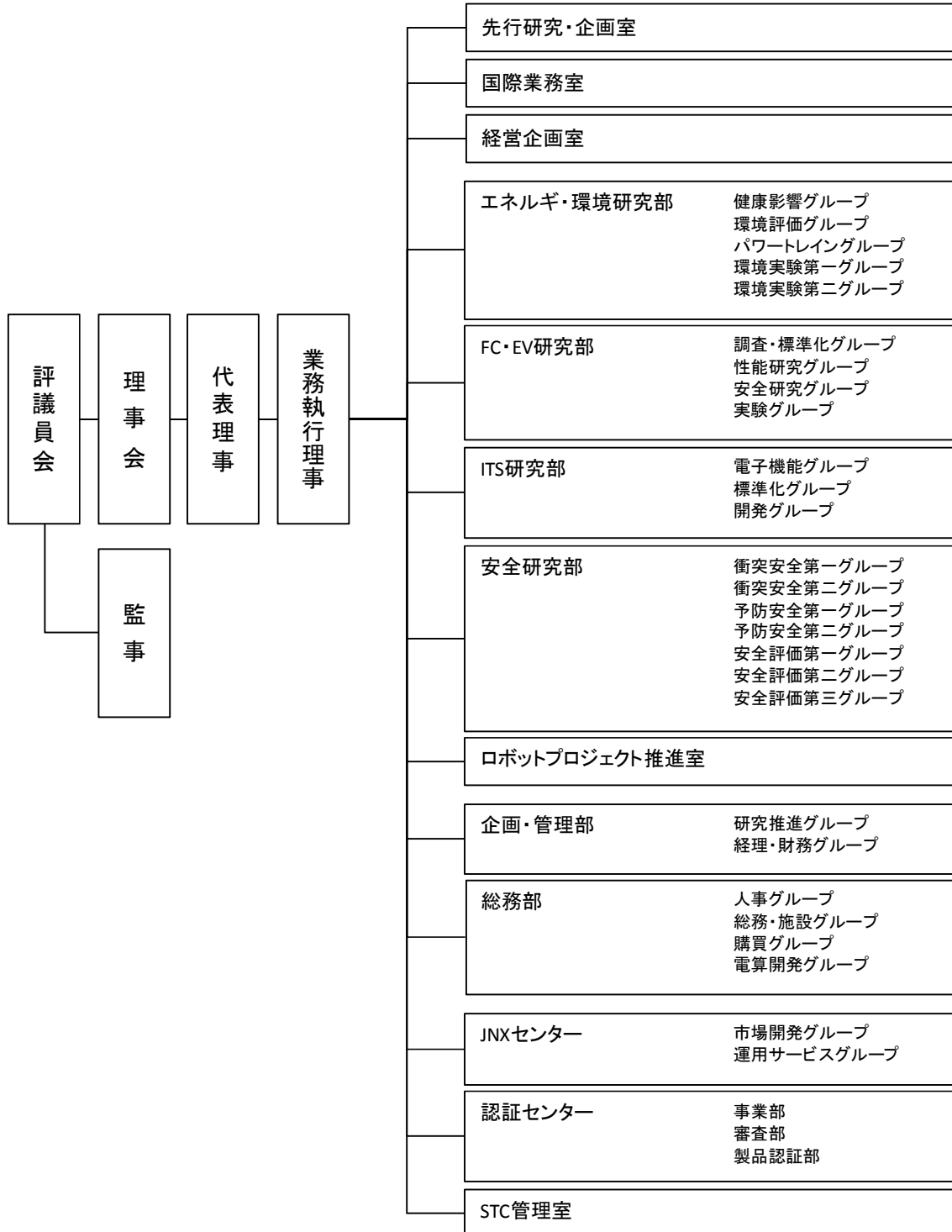
1.3 顧問名簿

顧問：10人

(平成26年3月31日現在)

井口雅一	(一財)日本自動車研究所 元副理事長・研究所長
岩崎正視	トヨタ自動車(株) 顧問
奥田碩	トヨタ自動車(株) 相談役
小枝至	日産自動車(株) 相談役名誉会長
小林敏雄	(一財)日本自動車研究所 前代表理事 研究所長
志賀俊之	日産自動車(株) 代表取締役 副会長
鈴木孝男	三菱ふそうトラック・バス株式会社 取締役会長
張富士夫	トヨタ自動車(株) 名誉会長
富永孝雄	(一社)日本自動車工業会 顧問
豊田章一郎	トヨタ自動車(株) 名誉会長

1.4 組織図



1.5 評議員会、理事会の議事一覧

(1) 評議員会

- ◇ 平成 25 年度 定時評議員会（平成 25 年 6 月 3 日）
 - 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告書（案）の件
 - 第 2 号議案 平成 24 年度決算報告書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 24 年度公益目的支出計画実施報告書の件
 - 第 4 号議案 平成 25 年度事業計画書の件
 - 第 5 号議案 平成 25 年度収支予算書の件
 - 第 6 号議案 役員等報酬（案）の件
 - 第 7 号議案 評議員選任の件
 - 第 8 号議案 役員選任の件

(2) 理事会

- ◇ 平成 25 年度第 1 回理事会（通常）（平成 25 年 5 月 10 日）
 - 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告書（案）の件
 - 第 2 号議案 平成 24 年度決算報告書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 24 年度公益目的支出計画実施報告書（案）の件
 - 第 4 号議案 役員報酬（案）の件
 - 第 5 号議案 評議員候補者の推薦の件
 - 第 6 号議案 役員候補者の推薦の件
 - 第 7 号議案 平成 24 年度定時評議員会開催及び議題の件

- ◇ 平成 25 年度第 2 回理事会（臨時）（平成 25 年 9 月 19 日）
 - 第 1 号議案 代表理事 研究所長の選定の件
 - 第 2 号議案 顧問委嘱の件

- ◇ 平成 25 年度第 3 回理事会（通常）（平成 26 年 3 月 14 日）
 - 第 1 号議案 平成 25 年度運営状況の報告
 - 第 2 号議案 平成 26 年度事業計画書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 26 年度収支予算書（案）の件

2.1 平成 25 年度研究事業一覧

課題数の総計：427

実施事業（公益的な事業） 課題数：94

事業	事業内容	研究分野	主な研究課題
実施事業 （公益的な事業）	基礎研究	環境・エネルギー (17 課題)	実走行燃費に及ぼす要因の基礎検討 実路走行状態におけるタイヤ損失仕事の検討 普通充電器認証試験の実施体制構築 実使用環境下におけるエネルギー関連材料の構造解析技術の開発 水素・燃料電池自動車の安全性に関わる解析手法の調査
		安全 (15 課題)	Mild Traumatic Brain Injury criteria and thresholds in humans 自転車乗員の保護に関する研究 後突時における女性の頸部傷害低減に関する研究 JARI-ARV の機能検証
		IT・通信 (5 課題)	ITS 産業動向に関する調査研究 IT・CE 技術の ITS への適用に関する研究
	総合研究	環境・エネルギー (30 課題)	乗用車等の排出ガス・燃費国際調和試験法（WLTP）策定のための検証試験に関する調査 エアコンの燃費影響評価法策定に関する調査 重量車の実走行データに基づく変速ロジックに関する調査 都市交通・エネルギー統合マネジメントシステムの開発および実証実験 平成 25 年度タイヤの騒音等に係る実態調査業務 （燃料電池）セル評価解析の共通基盤技術 自動車用圧縮水素容器の基準整備・国際基準調和に関する研究開発 車載蓄電池・電動車両等に関する国際標準化および試験法の研究開発 車載蓄電池の性能評価手法の技術開発 実使用環境下における燃料電池電極触媒劣化過程のその場観察 HILS 試験法の国際基準調和に関する調査研究
		安全 (22 課題)	自動車アセスメント情報提供業務に係る安全性能比較試験 交通事故鑑識官養成委託研修 超小型モビリティの安全性に係る調査 ドライブレコーダーによる錯綜状況の定量的類型化と運転安全性の客観的評価 衝突被害軽減ブレーキの実態調査 予防安全技術に係る試験評価方法の調査研究 交通安全生涯教育プログラムの開発-高学年児童を核にした生涯教育手法の構築と普及促進- 生活支援ロボットの安全性検証手法の研究開発
		IT・通信 (5 課題)	工業標準化推進事業（戦略的国際標準化加速事業：ITS の規格化事業） グリーン自動車技術調査研究事業（隊列走行技術に関する受容性調査）

その他事業（公益的な事業を除く全ての事業） 課題数：333

事業	事業内容	研究分野	主な研究課題	課題数
その他事業 （公益的な事業を除く全ての事業）	研究・試験	環境・エネルギー (109 課題)	大気環境、地球温暖化に関する研究・試験	39
			超クリーンディーゼル、NOx 低減、新燃料に関する研究・試験	11
			未規制物質に関する研究・試験	4
			排気ガスの健康影響に関する研究・試験	5
			EV、HEV、FCV に関する研究・試験	36
			道路交通騒音に関する研究・試験	12
			社会経済・アジア政策に関する調査・研究、その他	2
		安全 (214 課題)	乗員保護、歩行者保護に関する研究・試験	121
			バイオメカニクスに関する研究・試験	1
			交通事故分析、交通事故発生メカニズムに関する研究・試験	6
			材料/構造分析に関する研究・試験	28
			運転者特性/ヒューマンインターフェースに関する研究・試験	13
IT・通信 (10 課題)	運転視界/灯火器に関する研究・試験	1		
	自動車運動性能に関する研究・試験	38		
	高齢者対応に関する研究・試験	4		
	車両火災に関する研究・試験、その他	2		
		運転支援/自動運転システムに関する研究・試験	2	
		電気/電子・機能安全規格 ISO26262 に関する調査・研修	8	

2.2 平成 25 年度所外発表論文等一覧

(1) 論文(10 件)

題名	発表先	発表者名
<国内発表>		
車両軽衝突時の衝撃値の調査－車両搭載用蓄電池の衝撃試験適正化のための評価－	2013 年 5 月 自動車技術会論文集	高橋 昌志・高林 勝・竹内 正幸・大塚 宣明・三石 洋之
中国, インドおよび ASEAN の乗用車セクターにおける将来自動車技術および統合対策を考慮した長期 CO2 排出量推計	2013 年 7 月 自動車技術会論文集	金成 修一・富田 幸佳(JARI), 柴田 善朗(日本エネルギー経済研究所)
インフラ協調安全運転支援システムの表示インターフェイスに関する検討(第 5 報)－複数の情報が提供された場合の視聴覚表示の呈示方法－	2013 年 7 月 自動車技術会論文集	大谷 亮・江上 嘉典・岩城 亮(JARI), 中村 之信(日本自動車工業会)
回避されているケースを考慮した交通事故発生モデルの提案	2013 年 9 月 第 33 回交通工学研究発表会	今長 久(JARI), 鹿島 茂(中央大学)
自動運転大型トラックのための横運動モデルの積載状態推定	2013 年 11 月 自動車技術会論文集	靱山 富士男・景山 一郎(日本大学), 鈴木 儀匡・佐久間 淳・高林 勝(JARI)
情報機器の操作が運転行動に与える影響に関する実験研究	2014 年 3 月 自動車技術会論文集	宇野 宏(JARI), 中村 之信(日本自動車工業会)
前方車両衝突防止支援システムの効果予測－警報緩制動の有効性－	2014 年 3 月 自動車技術会論文集	本間 亮平・菊地 一範・若杉 貴志(JARI), 宇野 章則・浦井 芳洋・吉田 傑(日本自動車工業会)
実車両を用いた危険場面再現手法の研究－拡張現実技術を適用した実験車両の開発－	2014 年 3 月 自動車技術会論文集	田川 傑・内田 信行・佐藤 健治・神保 浩之
<海外発表>		
Investigation of the Impact Phenomenon During Minor Collision	2013 年 5 月 Journal of Alternative Powertrains	高橋 昌志・高林 勝・三石 洋之
Influence of age-specific parameters on the thoracic response under controlled belt loading conditions	2014 年 3 月 International Journal of Automotive Engineering	アントナ ハコボ・山本 義洋・加藤 良祐・佐藤 房子・江島 晋(JARI), 独古 泰裕・安木 剛(日本自動車工業会)

(2) 学術講演(77 件)

題名	発表先	発表者名
<海外発表> [環境・エネルギー]		
Effects of pre- and postnatal exposure to emissions from new technology diesel engines (NTDE) with diesel particulate filter on the reproductive and Central Nervous Systems	2013 年 4 月 Health Effects Institute 2013 Annual Conference (HEI 2013)	細谷 純一・古根村 綾乃・辺見 愛・田村 久美子・伊藤 剛(JARI), 香川 順(東京女子医大)

Continuous automotive exhaust particle size and components measurement using aerosol mass spectrometer	2013年8月 12th Asian Conference on Analytical Sciences (ASIANALYSIS XII)	秋山 賢一
Evaluation of a miniature cylindrical counter flow diffusion denuder for the removal of gas-phase compounds	2013年12月 8th Asian Aerosol Conference	萩野 浩之(JARI), 関口 和彦(埼玉大学)
[燃料電池/電気自動車/ハイブリッド車]		
A validity of low ventilation supposing accident processing with hydrogen leakage from hydrogen-fuelled vehicle	2013年4月 SAE 2013 World Congress	田村 陽介・大塚 宣明・竹内 正幸
Evaluation of the Validity of Test Procedure for Post-crash Concentration Measurement for Vehicle with Hydrogen Storage System	2013年9月 The fifth World Hydrogen Technologies Convention (WHTC 2013)	田村 陽介・大塚 宣明・竹内 正幸
Effectiveness of a blower in reducing the hazard of hydrogen leaking from a hydrogen-fuelled vehicle	2013年9月 International Conference on Humanized Systems 2013 (ICHS 2013)	田村 陽介・大塚 宣明・竹内 正幸・中川 翔馬(JARI), 佐藤 研二(東邦大学)
Membrane durability of an MEA of polymer electrolyte fuel cells under humidity cycle	2013年10月 Fuel Cell Seminar 2013	橋正 好行・清水 貴弘・松田 佳之・今村 大地・沼田 智昭・吉村 昇
Degradation factor analysis for storage aging test of LiNi1/3Mn1/3Co1/3O2/Graphite cells	2013年10月 224th ECS Meeting	今村 大地・明神 正雄・島田 佳祐
Structural stability analysis of Pt/C electrocatalyst by in situ TEM	2013年12月 2013 MRS Fall Meeting & Exhibition	清水 貴弘・今村 大地(JARI), 矢口 紀恵・金村 崇・上野 武夫(日立ハイテクノロジーズ)
[ITS]		
Research and development of fully automated vehicles	2013年11月 International Conference “Global/Local Innovations for Next Generation Automobiles”	青木 啓二
[予防安全]		
Study on subsidiary-task procedure to assess driver distraction	2013年10月 20th ITS World Congress	宇野 宏(JARI), 中村 之信(日本自動車工業会)
[衝突安全]		
Challenges of biomechanical research for further reduction of traffic accident casualties (Toward Zero Vision)	2013年5月 23rd Enhanced Safety of Vehicles Conference (23rd ESV)	小野 古志郎
[ロボット]		
Estimating Child Collision Injury Based on Automotive Accident Data for Risk Assessment of Mobile Robots	2013年11月 International Conference on Intelligent Robots and Systems 2013 (IROS 2013)	藤川 達夫・久保田 正美(JARI), 山田 陽滋(名古屋大学), 池田 博康(労働安全衛生総合研究所)
<国内発表> [環境・エネルギー]		
自動車排ガス中の固体粒子数計測法の原理とその校正法	2013年6月 第9回エアロゾルシンポジウム	利根川 義男

ガス状物質の直接実時間分析法の利点と注意点ー環境分析を例として	2013年7月 汀線科学研究所主催講演会	秋山 賢一
CMAQver5.0.1 最新反応モジュール SAPRC07tc-aero6 用の組成データの作成と課題	2013年8月 第30回エアロゾル科学・技術研究討論会	森川 多津子・中野 麻耶
飛行時間型エアロゾル質量分析計を用いた道路沿道におけるエアロゾル組成の観測	2013年8月 第30回エアロゾル科学・技術研究討論会	萩野 浩之(JARI), 関口 和彦(埼玉大学大学院), 坂本 和彦(埼玉県環境科学国際センター)
自動車排出量推計モデル JEI-VEM によるガソリン車の PM 量試算	2013年8月 第30回エアロゾル科学・技術研究討論会	森川 多津子
大気粉塵試料を用いた熱光学式炭素分析におけるキャリアガスの影響調査	2013年9月 第54回大気環境学会年会	萩野 浩之・中山 明美
2012年都市・沿道環境における微小粒子中の炭素成分の同位体分析	2013年9月 第54回大気環境学会年会	萩野 浩之・森川 多津子・伊藤 晃佳
トンネル環境を利用した自動車排出粒子プロフィール調査研究: エアロゾル質量分析計を用いた微小粒子成分の特性化	2013年9月 第54回大気環境学会年会	萩野 浩之・森川 多津子・伊藤 晃佳(JARI), 溝畑朗(大阪府立大学)
ブレーキ摩耗粉塵試験機の開発と排出計測に関する研究 その1:ブレーキ粉塵の排出動態	2013年9月 第54回大気環境学会年会	萩野 浩之・大山 求明・佐々木 左宇介
ブレーキ摩耗粉塵試験機の開発と排出計測に関する研究 その2:ブレーキ粉塵の化学・物理性状の分析	2013年9月 第54回大気環境学会年会	萩野 浩之・秋山 賢一・佐々木 左宇介
曝露評価に用いるための自動車排出ガス濃度の推計 (1)自動車排出量および大気濃度の推計	2013年9月 第54回大気環境学会年会	富田 幸佳・森川 多津子・伊藤 晃佳
ディーゼル排気粒子の酸化活性における構成成分寄与の解析法の検討 -吸着カラムによる炭化水素成分の分離-	2013年9月 第54回大気環境学会年会	古根村 綾乃・堺 温哉・伊藤 剛(JARI), 阿久津 康生(ジェー・エー・シー)
アレルギーモデルマウスにおけるディーゼル排気粒子の炎症性サイトカインへの影響	2013年9月 第54回大気環境学会年会	細谷 純一・伊藤 剛
大気汚染物質, 騒音, 振動と虚血性心疾患の関連性に関する疫学調査 (予備調査の研究デザイン)	2013年9月 第54回大気環境学会年会	堺 温哉
大気汚染物質, 騒音, 振動と虚血性心疾患の関連性に関する疫学調査 (質問票予備調査の結果)	2013年9月 第54回大気環境学会年会	堺 温哉
曝露評価に用いるための自動車排出ガス濃度の推計 (2)沿道濃度の観測	2013年9月 第54回大気環境学会年会	森川 多津子・富田 幸佳・伊藤 晃佳
JATOP における 2010 年排出量推計と CMAQver5.0.1 による広域大気質予測	2013年9月 第54回大気環境学会年会	森川 多津子・林 誠司・中野 麻耶・伊藤 晃佳(JARI), 中塚 誠次(NTT データ CCS)
CAPs 中の構成成分とラットの心筋における遺伝子発現の関連性	2013年9月 第54回大気環境学会年会	伊藤 剛(JARI), 小林 隆弘(国際環境研究協会)
PM2.5 中の有機粒子成分濃度の精度向上のための発生源側からの検討と課題	2013年9月 第54回大気環境学会年会	森川 多津子・萩野 浩之(JARI), 速水 洋(電力中央研究所), 茶谷 聡(豊田中央研究所), 嶋寺 光(大阪大学), 森野 悠・大原 利真(国立環境研究所)
大気汚染物質, 騒音・振動と虚血性心疾患の関連性に関する疫学調査 (曝露評価方法の検討)	2013年9月 第54回大気環境学会年会	伊藤 晃佳

JATOP2 自動車排出量推計モデルによる 2010 年推計結果と課題	2013 年 9 月 第 54 回大気環境学会年会	林 誠司・森川 多津子・中野 麻耶 (JARI), 中塚誠次(NTT データ CCS)
乗用車用タイヤ摩耗粉塵の測定手法開発	2013 年 9 月 第 54 回大気環境学会年会	利根川 義男・藤川 達夫・佐々木 左宇介
He 代替水素キャリアー使用時の問題点の検討	2013 年 9 月 日本分析化学会第 62 回年会	秋山 賢一
バイオディーゼル燃料によるポスト新長期規制適合エンジンの排出ガスへの影響	2013 年 10 月 自動車技術会 2013 年秋季大会	北村 高明・松浦 賢
ITS 施策評価のための CO2 排出量推計モデルの開発(第二報)ー走行挙動変化を伴う ITS 施策への対応ー	2013 年 10 月 自動車技術会 2013 年秋季大会	林 誠司・米沢 三津夫・木村 真・金成 修一・平井 洋
自動車からの排出物の実態ー自工会研究からー	2013 年 11 月 自動車技術会シンポジウム「自動車と大気環境を考える」	岡山 神一郎(日産自動車), 秋山 賢一・柏倉 桐子・利根川 義男・佐々木 左宇介(JARI)
Preoptic-raphé connections for thermoregulatory and febrile cutaneous vasoconstriction	2014 年 3 月 第 91 回日本生理学会大会	田中 睦美(JARI), Michael McKinley・Robin McAllen(Florey Neuroscience Institute)
[燃料電池／電気自動車／ハイブリッド車]		
リチウムイオン電池の劣化要因解析(第 1 報)	2013 年 5 月 自動車技術会 2013 年春季大会	今村 大地・明神 正雄・島田 佳祐・前田 安正・森田 賢治・三枝 省五 (JARI), 田中 謙司(東京大学)
固体高分子型燃料電池触媒層のその場観察	2013 年 5 月 日本顕微鏡学会第 69 回学術講演会	清水 貴弘・今村 大地・吉村 昇 (JARI), 矢口 紀恵・上野 武夫(日立ハイテクノロジーズ), 金村 崇(日立ハイテクマニファクチャー&サービス)
限界酸素指数に与えるサンプル厚みの影響	2013 年 6 月 平成 25 年度日本火災学会研究発表会	細貝 亜樹(有人宇宙システム), 山崎 浩嗣(JARI), 中村 祐二(北海道大学大学院工学研究院), 若月 薫(消防庁消防大学校消防研究センター), 木本 雄吾(宇宙航空研究開発機構)
ナノ材料解析のための多機能 in situ TEM 技術	2013 年 9 月 第 29 回分析電子顕微鏡討論会	矢口 紀恵・松本 弘昭・渡部 明・長沖 功(日立ハイテクノロジーズ), 清水 貴弘・今村 大地(JARI), 上野 武夫(山梨大学)
自動車用リチウムイオン電池の水没時の挙動	2013 年 10 月 第 54 回電池討論会	高橋 昌志・前田 清隆・中川 翔馬
硬 X 線光電子分光によるカーボン負極に形成された SEI の挙動解析	2013 年 10 月 第 54 回電池討論会	松本 匡史・上口 憲陽・真田 貴志・今井 英人・松本 隆(日産アーク), 今村 大地(JARI)
燃料電池自動車の実走行を模擬した運転モードにおける水素中の一酸化炭素による影響	2014 年 3 月 電気化学会第 81 回大会	松田 佳之・清水 貴弘・鶴見 直美 (JARI), 大丸 明正(大同大学)
固体高分子形燃料電池における低濃度の一酸化炭素吸着および排出挙動	2014 年 3 月 電気化学会第 81 回大会	松田 佳之・清水 貴弘・中村 慎二郎・鶴見 直美
市販リチウムイオン電池における温度・充放電レートに依存した劣化機構	2014 年 3 月 電気化学会第 81 回大会	松田 智行・明神 正雄・今村 大地
硬 X 線光電子分光法によるリチウムイオン電池の劣化要因解析	2014 年 3 月 電気化学会第 81 回大会	今村 大地・松田 智行・明神 正雄 (JARI), 松本 匡史・今井 英人(日産アーク)
[ITS]		

自動運転・隊列走行システムの開発(第2報)	2013年5月 自動車技術会 2013年春季大会	河島 宏紀・鈴木 儀匡・青木 啓二・森田 康裕
隊列走行における先行車追従制御技術の開発	2013年5月 自動車技術会 2013年春季大会	山田 善之・河島 宏紀・青木 啓二(JARI), 青木 崇・杉町 敏之・深尾 隆則(神戸大学)
作動要求時平均機能失敗確率(PFD)算定のための平均フォールト時間について	2013年9月 電子情報通信学会	小谷田 一詞(JARI), 佐藤 吉信(JACO)
[予防安全]		
車線逸脱警報呈示時における車線復帰操舵行動のモデル化	2013年5月 自動車技術会 2013年春季大会	岩城 亮・若杉 貴志(JARI), 持田 勤・吉田 傑(日本自動車工業会)
前照灯の照射範囲と視認性に関する研究	2013年5月 自動車技術会 2013年春季大会	鈴木 崇・橋本 博(JARI), 北澤 達磨・大川 正夫・望月 清隆(小糸製作所)
運転者対処行動に基づくコントローラビリティの判定	2013年5月 自動車技術会 2013年春季大会	川越 麻生・金子 貴信(JARI), 行木 亨(日本自動車工業会)
小学生対象の小集団討論の効果と課題ー交通および日常行動のリスク認識の変容ー	2013年9月 日本応用心理学会第80回記念大会	大谷 亮
低学年児童を対象にした行動修正法の効果ー適切な道路の横断行動についての認識の変化ー	2013年9月 日本安全教育学会第14回浦安大会	大谷 亮・岡田 和未・藤田 和男・橋本 博・小林 隆・岡野 玲子
インフラ協調安全運転支援システムの受容性を促進する表示インターフェースの検討(第1報)ー情報提供に伴う煩わしさの影響要因ー	2013年10月 自動車技術会 2013年秋季大会	大谷 亮・江上 嘉典・岩城 亮(JARI), 中村 之信(日本自動車工業会)
高齢運転者の日常運転に基づく一時停止規制のある無信号交差点での不安全行動分析	2013年10月 自動車技術会 2013年秋季大会	細川 崇・橋本 博(JARI), 平松 真知子・吉田 傑(日本自動車工業会)
前方車両衝突防止支援システムの効果予測ー警報緩制動の有効性ー	2013年10月 自動車技術会 2013年秋季大会	本間 亮平・菊地 一範・若杉 貴志(JARI), 宇野 章則・浦井 芳洋・吉田 傑(日本自動車工業会)
実車を用いた危険場面再現手法に関する研究(副題)拡張現実技術を適用した実験車の開発	2013年10月 自動車技術会 2013年秋季大会	田川 傑・内田 信行・佐藤 健治・神保 浩之
横断歩行者に対するドライバの行動分析	2013年10月 自動車技術会 2013年秋季大会	岩城 亮・若杉 貴志・内田 信行(JARI), モラレス 寺岡 エドガル 芳男・田中 信(トヨタ自動車)
情報機器の操作が運転行動に与える影響に関する実験研究	2013年10月 自動車技術会 2013年秋季大会	宇野 宏(JARI), 中村 之信(日本自動車工業会)
追突防止における警報および注意喚起による支援と追突リスクとの関係	2013年10月 計測自動制御学会システム情報部門学術講演会(SS12013)	安部 原也(JARI), 伊藤 誠(筑波大学), 山村 智弘(日産自動車)
緑内障による運転影響の定量的把握に関する試み	2013年11月 第55回日本産業・労働・交通眼科学会	佐藤 健治・安部 原也・内田 信行(JARI), 植田 俊彦(昭和大学)
[衝突安全]		
構造インタラクション評価のためのフルラップ試験法に関する研究	2013年5月 自動車技術会 2013年春季大会	新井 勇司
事故自動通報システムの開発と通報データの活用方法の検討	2013年6月 第49回日本交通科学協議会学術講演会	高山 晋一・江島 晋・小野 古志郎・三上 耕司・福山 慶介

年齢と性別の違いに着目した前面衝突時の傷害の発生動向の分析	2013年6月 第49回日本交通科学協議会学術講演会	今長 久・高山 晋一・立石 一正・三上 耕司・江島 晋・小野 古志郎
後突事故における頸部傷害と乗員挙動	2013年6月 第49回日本交通科学協議会学術講演会	佐藤 房子・アントナ ハコボ・江島 晋・小野 古志郎
Mild TBI mechanisms in saggital impacts: Monkey head trauma experiments and reconstruction of these using a monkey head FE model	2013年6月 第49回日本交通科学協議会学術講演会	アントナ ハコボ・小野 古志郎・江島 晋
シミュレーションによる歩行者事故の解析－SUV型車両における車両の衝突速度と歩行者の飛翔距離の関係	2013年6月 第49回日本交通科学協議会学術講演会	福山 慶介・山崎 邦夫・松川 不二夫
幼児ダミーを用いたスレッド衝撃試験に基づく幼児用バスの乗員保護対策の効果評価	2013年10月 自動車技術会 2013年秋季大会	北島 創・すけ川 佳弘(JARI), 神谷 智英・増田 光利・高宮 智昭(日本自動車工業会)
もぐり込み衝突等により段差変形が生じた車両のバリア速度推定法	2013年11月 日本法科学技術学会	本宮 嘉弘・長谷川 博一(新潟県警科学捜査研究所), すけ川 佳弘(JARI)
被験者を用いた前方衝撃直前の頸椎挙動の三次元的解析:筋緊張時と筋弛 緩時の挙動の違い	2013年11月 臨床バイオメカニクス学会第40回学術集会	中山 敬太・坂根 正孝・西野 衆文・山崎 正志(筑波大学大学院), 伊藤 大輔・北島 創・江島 晋(JARI)
[ロボット]		
事業者向け草刈りロボットのリスク低減方策	2013年9月 第31回日本ロボット学会学術講演会	浅野 陽一・松本 光司・高瀬 國克
草刈ロボットの自己位置推定精度検証	2013年9月 第31回日本ロボット学会学術講演会	松本 光司・浅野 陽一・高瀬 國克

(3) 解説(18件)

題名	投稿先	投稿者名
<国内発表>		
実走行燃費の特性	2013年6月 JAMAGAZINE	松浦 賢
車載用 Li イオン電池の定置用途への利用	2013年6月 定置型 Li イオン蓄電池の開発	今村 大地
研究機関としてのアジアへの関わり	2013年6月 CROSS T&T	中谷 有
最新ディーゼルの健康影響	2013年7月 エンジンレビュー	伊藤 剛
安全部会の国際標準化活動	2013年7月 自動車技術	高橋 信彦・増田 光利・横橋 松人(自動車技術会), 小野 古志郎(JARI)
ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車	2013年8月 自動車技術	島村 和樹・桑田 雅敏・橋正 好行
規格委員会活動レポート	2013年9月 自動車技術	野田 明(公益財団法人日本自動車輸送技術協会), 中條 智哉(JARI)

中国, インドおよび ASEAN の乗用車部門における CO2 排出量シナリオ	2013 年 11 月 自動車交通研究	金成 修一・富田 幸佳(JARI), 柴田 善朗(日本エネルギー経済研究所)
日本自動車研究所(JARI)の推進する自動車用機能安全規格 ISO26262 への取り組み	2013 年 12 月 月間自動車部品	小谷田 一詞
いままぜ医工連携化?	2013 年 12 月 自動車技術	小野 古志郎・高山 晋一
道路近傍からバックグラウンド大気への PM0.1, PM2.5 中化学成分の挙動	2014 年 2 月 エアロゾル研究(特別号)	関口 和彦・木下 勝利史・桜井 健治・王 青耀(埼玉大学), 金 庚煥(韓国科学技術院), 萩野 浩之(JARI)
つながる自動車と関連標準化・セキュリティの動向	2014 年 2 月 自動車技術	伊藤 寛
車載向け燃料電池用低コスト触媒の新規開発に向けた取り組み	2014 年 3 月 次世代自動車技術とシェール革命	清水 貴弘・今村 大地(JARI), 上野 武夫(山梨大学燃料電池ナノ材料研究センター)
前方衝突/追突防止支援システムとドライバ反応特性	2014 年 3 月 自動車技術	本間 亮平・菊地 一範・若杉 貴志(JARI), 吉田 傑(日本自動車工業会)
<海外発表>		
Safety Testing of an Improved Brake System for Automatic Platooning of Trucks	2013 年 11 月 International Journal of Intelligent Transportation System Research	安藝 雅彦・李 昇勇・山邊 茂之・中野 公彦・須田 義大(東京大学), 石坂 宏行(日野自動車), 鈴木 儀匡・河島 宏紀・佐久間 淳(JARI)
Parameter Identification of a Vehicle for Automatic Platooning Control for Automatic Platooning of Trucks	2013 年 11 月 International Journal of Intelligent Transportation System Research	李 昇勇・安藝 雅彦・大堀 真敬・山邊 茂之・中野 公彦・須田 義大(東京大学), 石坂 宏行(日野自動車), 鈴木 儀匡(JARI)
Steering Control and Automatic Tuning to Deal with Road Cant for Automatic Platooning of Trucks	2013 年 11 月 International Journal of Intelligent Transportation System Research	杉町 敏之(東京大学), 深尾 隆則(神戸大学), 鈴木 儀匡・河島 宏紀(JARI)
Functional Safety Assessment in All-Japan activities with JARI	2013 年 11 月 Safetronic 2013	小谷田 一詞

(4) その他の発表(21 件)

題名	発表先	発表者名
<国内発表>		
マクスペクトル解析の基礎	2013 年 8 月 第 19 回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会	秋山 賢一
ガスクロ初級講座	2013 年 9 月 JAIMA コンファレンス	秋山 賢一
自動運転・隊列走行の開発成果と自動運転の今後	2013 年 9 月 中部 IT 融合セミナー	青木 啓二
エネルギー ITS における自動運転・隊列走行への取り組み	2013 年 9 月 予防安全と自動運転シンポジウム 2013	青木 啓二
固体高分子形燃料電池における空気極触媒の劣化現象	2013 年 10 月 日本セラミックス協会関東支部 第 3 回若手研究発表交流会	片柳 雄大・松下 伸広(東京工業大学応用セラミックス研究所), 時盛 ひとみ・山口 猛央(東京工業大学資源化学研究所), 橋正 好行・清水 貴弘(JARI)

エネルギーITS 推進事業「自動運転・隊列走行技術開発」	2013年10月 NEDO 省エネルギー技術フォーラム 2013	青木 啓二
高速現象の解析を目的とした実験計測	2013年10月 PUCA2013	古川 尚・高山 晋一・山本 義洋 (JARI)
アルコールの検知技術と課題	2013年11月 第43回東京モーターショー2013 「飲酒運転防止についてのシンポジウム」	佐々木 左宇介
電動車両の標準化活動	2013年11月 パワーエレクトロニクス学会専門講習会	木戸 彰彦
欧州 CAM,DENM の EN 版概要	2013年11月 欧州メッセージセット勉強会 (ARIB)	鈴木 尋善
車載蓄電池の性能評価と劣化要因解析	2013年12月 日産アーク技術セミナー	今村 大地
欧州 RHS アプリ仕様と CAM,DENM の EN 版概要	2013年12月 欧州メッセージセット勉強会 (ASV)	鈴木 尋善
Car2Car Forum2013 報告	2013年12月 VSC 関連国際会議結果報告会	鈴木 尋善
TC204 WG17 標準化活動状況	2013年12月 平成25年度 ISO/TC204 国際標準化活動に関する専門家会議	伊藤 寛
環境規制と次世代自動車の動向	2014年1月 電気化学セミナー1「最先端電池技術-2014」	森田 賢治
車載蓄電池の性能評価と劣化分析	2014年1月 日本分析学会「第2回電池開発のための分析・解析技術講習会」	今村 大地
自動運転技術の開発動向と実用化に向けた課題	2014年1月 ISIT 第14回カーエレクトロニクス研究会	青木 啓二
ヒト/モノの移動を支える自動走行と CPS 技術	2014年3月 「ヒト/モノのモビリティ」ジョイントシンポジウム	香月 伸一
<海外発表>		
Standardization activities on vehicle data in ISO	2013年5月 Automotive and web platform business group face to face meeting	伊藤 寛
Autonomous Vehicles - the Path to Implementation	2013年10月 20th ITS World Congress Executive Sessions 01	青木 啓二
Automated platoon Technologies on Energy ITS Initiative	2013年10月 20th ITS World Congress Host Selected Sessions 03	青木 啓二

2.3 平成 25 年度 学会表彰の受賞者一覧

表彰名	受賞者	対象名
自動車技術会賞 浅原賞学術奨励賞	本間 亮平	前方車両衝突防止支援システムの効果予測 －危険の予期が低いドライバの衝突予知警報 に対する反応特性－

2.4 平成 25 年度産業財産権出願一覧

出願番号	発明者	発明の名称
PCT/JP2013/079278	内田 信行、他	車両用危険場面再現装置、およびその使用方法
PCT/JP2013/078041	前田 安正、他	リチウムイオン電池の劣化推定装置及び劣化推定方法
特願 2014-042040	鴻巣 敦宏、他	頭部保護具

2.5 平成 25 年度産業財産権登録一覧

登録番号	発明者	発明の名称
特許第 5433642 号	鴻巣 敦宏、他	衝撃吸収構造体及び人体保護具
特許第 5470182 号	田川 傑、他	車両用危険場面再現装置
特許第 5484177 号	伊藤 久雄、他	プリクラッシュ試験方法とプリクラッシュ試験装置

3.1 平成 25 年度テストコース外部利用者使用状況

(単位：千円)

使用区分		実績
業 種 別	国内自動車（二輪・四輪）関係	521,114
	海外自動車関係	5,000
	車体関係	21,489
	部品関係	54,312
	タイヤ関係	27,507
	その他	15,889
	合 計	645,311
テ ス ト コ ー ス 別	高速周回路	337,638
	総合試験路	52,190
	その他	255,483
	合 計	645,311

4.1 平成 25 年度技術刊行物一覧

区 分	題 名	発行年月
報告書	ITS 産業動向に関する調査研究報告書 －ITS 産業の最前線と市場予測 2013－	平成 25 年 5 月
報告書	自動車-機能安全- ISO 26262 解説書	平成 25 年 10 月
報告書	ITS 協調システムの情報項目の標準化に関する 分析・検証 報告書	平成 26 年 3 月
年 報	日本自動車研究所 平成 24 年度 年報	平成 25 年 8 月
年 報	2013 JARI 研究論文集	平成 25 年 8 月
所 報	JARI Research Journal 2013 年 4 月～2014 年 3 月 (研究速報、技術資料など 54 編を JARI ウェブサイトに掲載)	平成 25 年 4 月～ 平成 26 年 3 月

4.2 平成 25 年度蔵書、資料保有状況

区 分	取得件数	累 計
単行本 (和書)	366 冊	12,673 冊
単行本 (洋書)	38 冊	2,227 冊
国内雑誌	20 誌	—
外国雑誌	3 誌	—
報告書等	245 点	30,765 点

4.3 平成 25 年度寄付金実績

区 分	実 績 (千円)
一般社団法人日本自動車工業会会員	10,000
個人	2,300
合 計	12,300

4.4 平成 25 年度主要設備・工事等一覧

件 名	主 な 内 容
研究設備、機器の導入、更新	<ul style="list-style-type: none"> ・バルーンターゲット装置 (ADAC Test System AEBS) の導入 <ul style="list-style-type: none"> ADAC Propulsion System ADAC Target ・バルーンターゲット装置 (UFO Pedestrian System for AEBS) の導入 <ul style="list-style-type: none"> UFO Pedestrian Pedestrian Target ・走行時蒸発ガス測定装置用シャシダイナモメータ制御計測システムの更新 ・走行モード対応充放電装置 <ul style="list-style-type: none"> 充放電装置 (12ch, 出力電圧範囲 0V~6V) 恒温槽 (-20℃~85℃)
主要工事等整備	<ul style="list-style-type: none"> ・EV・電池研究棟建設工事 <ul style="list-style-type: none"> 建物構造：鉄骨軽量コンクリート造平屋建 建物面積：468.51 m² 特 長：省エネを重視した建物設計 附属設備：二柱リフト ・高圧ケーブル更新 2 期工事 <ul style="list-style-type: none"> 老朽化した高圧ケーブルの更新 更新範囲：本館、安全研究棟、ダイナミックス棟 生物棟方面、工作室方面、保安電源

参考：平成 25 年度正味財産増減計算書（予算決算比較表）

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
1. 一般正味財産増減の部			
(1) 経常増減の部			
1) 経常収益			
①基本財産運用益	22,290,000	22,884,868	△ 594,868
②特定資産運用益	68,840,000	56,282,635	12,557,365
③受取賛助員会費	110,020,000	95,638,167	14,381,833
④事業収益	6,139,480,000	6,134,387,875	5,092,125
・研究事業収益	4,630,340,000	4,760,320,537	△ 129,980,537
・施設貸出事業収益	790,440,000	684,854,602	105,585,398
・認証事業収益	483,630,000	472,882,136	10,747,864
・J N X 事業収益	235,070,000	216,330,600	18,739,400
⑤受取補助金	392,120,000	347,874,324	44,245,676
・受取補助金	281,080,000	270,805,748	10,274,252
・受取補助金振替額	111,040,000	77,068,576	33,971,424
⑥受取負担金	0	25,714,287	△ 25,714,287
⑦受取寄付金	10,000,000	12,300,000	△ 2,300,000
⑧雑収益	104,580,000	149,360,911	△ 44,780,911
経常収益計	6,847,330,000	6,844,443,067	2,886,933
2) 経常費用			
①事業費	7,072,410,000	6,725,882,960	346,527,040
・研究事業直接経費	1,307,210,000	1,176,556,115	130,653,885
・事業人件費	2,979,610,000	2,862,114,435	117,495,565
・事業経費	1,215,920,000	1,147,549,320	68,370,680
・事業減価償却費	1,458,630,000	1,457,663,429	966,571
・補助事業減価償却費	111,040,000	77,068,576	33,971,424
・事業除却費	0	4,931,085	△ 4,931,085
②管理費	453,230,000	655,698,692	△ 202,468,692
・人件費	157,490,000	148,092,952	9,397,048
・経費	265,470,000	328,146,637	△ 62,676,637
・減価償却費	22,270,000	22,555,786	△ 285,786
・除却費	8,000,000	156,903,317	△ 148,903,317
経常費用計	7,525,640,000	7,381,581,652	144,058,348
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 678,310,000	△ 537,138,585	△ 141,171,415
・特定資産評価損益等	0	173,969,400	△ 173,969,400
評価損益等計	0	173,969,400	△ 173,969,400
当期経常増減額	△ 678,310,000	△ 363,169,185	△ 315,140,815
(2) 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 678,310,000	△ 363,169,185	△ 315,140,815
法人税、住民税及び事業税	260,000	192,000	68,000
当期一般正味財産増減額	△ 678,570,000	△ 363,361,185	△ 315,208,815
一般正味財産期首残高	19,257,481,629	19,257,481,629	0
一般正味財産期末残高	18,578,911,629	18,894,120,444	△ 315,208,815
2. 指定正味財産増減の部			
①受取補助金	17,500,000	21,345,500	△ 3,845,500
②過年度修正受取補助金	0	33,129,000	△ 33,129,000
③一般正味財産への振替額	△ 111,040,000	△ 77,068,576	△ 33,971,424
当期指定正味財産増減額	△ 93,540,000	△ 22,594,076	△ 70,945,924
指定正味財産期首残高	195,798,347	195,798,347	0
指定正味財産期末残高	102,258,347	173,204,271	△ 70,945,924
3. 正味財産期末残高	18,681,169,976	19,067,324,715	△ 386,154,739